

令和 5 年 3 月 3 日

令和 4 年度 練馬区立谷原中学校 学校評価報告書

練馬区立谷原中学校
校長 大槻 亨

1 自己評価結果

(1) 概要

今年度の保護者アンケートの回答率（家庭数）は60.8%で、昨年の66.7%から5.9ポイント下がっている。

本校では、「安全・安心な学校体制の構築」「豊かな心と健康な体を育む取組」「確かな学力の向上を図る取組」「魅力ある授業の構築」「地域との関わりを重視した教育活動」を学校経営の重点として教育活動を進めている。

「安全・安心な学校体制の構築」については、生徒の生命の安全・健康を最優先に考え、校内研修会の機会を活用してアレルギー対応や健康状態、個々の生徒の実態について全ての教職員で共通理解を図っている。日頃からいじめや事故の未然防止に努め、事案発生時には組織的で迅速な初期対応を行う体制をとることができている。不登校生徒の対応には、スクールカウンセラーや心のふれあい相談員等を活用し、教育相談体制を整えて生徒が支援を発信しやすい環境を整えている。

「豊かな心と健康な体を育む取組」については、道徳の授業の充実を通して自他を認め大切にできる心情を育成し、生徒の心の醸成に努めている。しかし、生徒会や生活委員会が中心となって行う異学年交流、特別支援学級とのレクリエーションやあいさつ運動は、今年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の影響で十分に実施できなかった。

保健体育の授業や部活動等の活動を通して自身の健康保持と体力の向上につとめてきた。今年度もオリンピック・パラリンピック教育を推進し、障害者スポーツやボランティアマインドの醸成に取り組んだ。

今後も生徒の自己肯定感を高め、自分を大切にするとともに他者を尊重できる意識と姿勢をさらに育む指導を深めていく。

「確かな学力の向上を図る取組」は、十分な授業時数を確保した量的側面と学力調査や定期考査等の分析による生徒の実態に合わせた授業改善を行っている。授業規律を徹底させ、落ち着いた学習環境を整えるとともに感染予防対策を講じた上で、生徒どうしの話し合い活動や学び合い活動を実施している。さらに授業時間だけでなく家庭学習の定着についても、タブレット端末や学習支援ソフトの活用を推進している。

また、長期休業中の補充教室、3年生対象の放課後学習教室（地域未来塾）は新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防を行いつつ地域人材を活用した学習指導を行った。引き続き効果的な学習支援の方法を考えて行く。

小中一貫教育の推進については、今年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防の観点から小学校と中学校の交流が十分に実施できなかった。小学校と調整をとりながら、小学校から中学校へのスムーズな接続と9年間の連続した学びにつなげて行く。

「魅力ある授業の構築」については、多くの教員がICT機器やタブレット端末を活用した授業展開を工夫している。生徒にとって分かりやすい授業を目指して3人組の研究グループによる研究授業を計画し、定期的に授業研究を行い、グループ内で教員相互が協議を行い、教員の授業力向上を目指している。指導と評価について研修を深め信頼される評価・評定の実施に努めていく。

「地域との関わりを重視した教育活動」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防の観点からほとんどの地域行事が中止となる中、職場体験や上級学校訪問は実施することができた。今後は、新型コロナウイルスにより見いだされた職場訪問に代わる新たな方法を具体化して行く。

(2) 根拠となる資料

※学校評価アンケートの「あてはまる：4点、ややあてはまる：3点、あまりあてはまらない：2点、まったくあてはまらない：1点」として点数化した（4点満点）（ ）内は昨年度との比較

	評価項目	保護者	生徒
1	規律ある分かりやすい授業が行われている。	3.2(±0)	3.3(±0)
	自己評価についての評価結果および主な意見		
	<ul style="list-style-type: none"> 各学年とも落ち着いた雰囲気での授業が展開されている。 長期休業中の補充教室や放課後の補充教室は地域人材を活用して実施することができた。 		
	自己評価を踏まえた次年度の改善策		
2	いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	3.3(±0)	3.5(+0.1)
	自己評価についての評価結果および主な意見		
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自らがいじめや暴力の未然防止に取り組む意識を高めさせることができた。 道徳の時間を中心に教育活動全般を通して、豊かな心の醸成に努めていく必要がある。 		
	自己評価を踏まえた次年度の改善策		
3	学校は子供たちが悩みなどを相談できる信頼関係がある。	3.1(+0.1)	3.3(±0)
	自己評価についての評価結果および主な意見		
	<ul style="list-style-type: none"> 年3回のふれあい月間アンケートを活用し、生徒の悩みの発見につなげている。 スクールカウンセラーや心のふれあい相談員と連携し、生徒・保護者との信頼関係を構築している。 		
	自己評価を踏まえた次年度の改善策		
4	学校だより、学年だより、学校ホームページなどで学校の様子がよく伝えられている。	3.3(±0)	3.4(+0.1)
	自己評価についての評価結果および主な意見		
	<ul style="list-style-type: none"> 各種たよりや学校ホームページで教育活動の様子を公開することができた。 学年行事の学校ホームページ公開は、担当者を明確にして組織的に対応が必要である。 		
	自己評価を踏まえた次年度の改善策		
5	生活上の問題に対してすばやく対応している。	3.2(-0.1)	3.3(±0)
	自己評価についての評価結果および主な意見		
	<ul style="list-style-type: none"> すべての教員で情報を共有し、迅速で適切な初期対応を実践している。 生徒指導を行った際は家庭に連絡し、状況を報告するとともに家庭での指導を依頼している。 		
	自己評価を踏まえた次年度の改善策		
6	学校は新型コロナウイルス感染症対策を適切に行い、教育活動を進めている。	3.4(±0)	3.4(±0)
	自己評価についての評価結果および主な意見		
	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症予防対策は徹底できている。 新型コロナウイルス感染症に起因するいじめやトラブルはなかったが、活動制限に伴う精神的、肉体的な影響が心配である。 		
	自己評価を踏まえた次年度の改善策		
	<ul style="list-style-type: none"> 感染防止の意識を高めてるとともに差別をしない人権感覚を養う指導を行っていく。 学校行事や部活動、保健体育の授業を通して体力の保持、健康の増進を図る。 		

7	子供を安心して学校に通わせられる。	3.5(-0.1)	3.4(±0)
	自己評価についての評価結果および主な意見		
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒間のトラブルやからかい、悪ふざけはあったが、早期指導により解決させることができています。 服務研修や校内研修を通して生徒理解に努め、個に応じた指導にあたることができた。 		
	自己評価を踏まえた次年度の改善策		
	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談活動を充実させ、生徒・保護者の悩みや要望に答えられる体制を整えていく。 保護者の方に来校していただき、教育活動の様子を見ていただく機会を増やしていく。 		

2 学校関係者評価

(1) 総括

今年度は集合型で年間3回の学校関係者会議を開くことができた。学校評議員の皆さんから直接ご意見を伺う機会ができた。保護者・生徒、学校関係者評価の意見や提案を参考に今後の学校経営計画、教育活動に反映させて行く。

①成果

- 授業規律も確立されており、落ち着いた学習環境の中で生徒は目的意識をもって学習に取り組んでいる。
- いじめや問題行動もなく、落ち着いた学校生活が送れている。
- 新型コロナウイルス感染症拡大前の通常に近い形で学校行事や部活動が再開され、生徒が活躍し自己肯定感を感じる機会が作られている。

②課題

- 家庭学習の習慣が身に付いていないと感じている保護者・生徒が多い。家庭学習の習慣を確実に身に付けさせる指導が必要である。
- 新型コロナウイルス感染症を機に入試のスタイルが大きく変わってきている。次年度確実な引き継ぎが必要である。
- 各学年に複数の不登校傾向の生徒がおり長期化している。関係機関へ接続する必要がある。
- 保護者の自由意見には批判的なものもある。学校の取り組みを説明し、理解を深めてもらう方策を考える必要がある。

③改善策

- 引き続き規律のある授業を定着させるとともに教員の授業改善を継続していく。
- 家庭学習の習慣化に向けて、計画的にタブレット端末や学習支援ソフトの課題を提出していく。
- 長期休業中だけでなく放課後の補充教室も含めて、地域人材を活用してより効果的な実施に向けて検討していく。
- 学校行事や学校公開日等で保護者・地域の方の来校の機会を増やすとともに、PTAや地域と連携を深めていく。

(2) 根拠となる資料

	項目	具体的な方策	自己評価に対する意見	学校関係者評価を踏まえた次年度の方策
1	安全・安心な学校体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解と共通理解 いじめや事故の未然防止、適切な初期対応 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は全体的に落ち着いた学校生活を送っている。 不登校やいじめ等の課題解決に取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の特性を共通理解し、適切な指導をして行く。 豊かな心の醸成を図るとともに教育相談体制を充実させて行く。
2	豊かな心と健康な体を育む取組	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育の推進 授業や部活動を通した基礎体力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動全般を通して、生徒は主体的に活動している。 自発的なあいさつを定着させてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いを思いやる道徳的实践力を身に付けさせて行く。 健康保持を意識させ、自身の体力向上につなげていく。

3	確かな学力の向上を図る取組	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本を大切に授業の実施 学習習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に授業規律は確立され、学力の定着につながっている。 補充教室の充実や家庭学習の定着を継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材を活用した補充教室や質問教室を計画し、基礎学力の定着につなげていく。 タブレットパソコンの有効活用を組織的に検討していく。
4	魅力ある授業の構築	<ul style="list-style-type: none"> 言語活動を充実させた主体的・対話的で深い学びの実践 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器やタブレット端末などハード面は充実してきた。 ICT機器やタブレット端末をさらに効果的に活用してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内外の研修を通じて教員の授業力の向上を図っていく。 新学習指導要領の完全実施に向けてさらに研修を深めていく。
5	地域との関わりを重視した教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開と情報発信 地域との連携・協力の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 徐々に地域行事にも参加してほしい。 各種たよりや学校ホームページを通じて学校の取組を周知してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> P T Aや地域と連携を深め、行事に参加していく。 各種たよりや学校ホームページを組織的に運営し、情報発信に努めていく。

3 評価結果の公表等

評価結果は、次のように保護者・地域へ公表していく。

- (1) 通年 各行事・学校公開日でアンケートを実施する。
- (1) 令和4年12月 保護者・生徒・教職員による学校評価アンケートを実施する。
- (2) 冬季休業中 学校評価アンケート集計・分析・まとめを行う。
- (3) 令和5年2月 学校関係者評価委員会で集計結果・まとめを提示し、意見交換を行う。
- (4) 令和5年3月以降 学校ホームページや学校だよりで保護者・地域に公表するとともに保護者会等の資料として活用していく。

4 次年度の学校改善へ向けた校長の見解

今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大による教育活動の制限は継続となった。これまで感染症対策を徹底しながら教育活動を行ってきたが、生徒の学習保障と感染症対策に奔走する日々であった。そのような中であって、生徒・保護者ともに「学校は新型コロナウイルス感染症対策を適切に行い、教育活動を進めている」の評価が3年間高い数値を維持できたのは、新型コロナウイルス感染症を防止するための取組を教師と生徒が一体感をもって行うことができたことが要因の一つだと考える。活動に制約が多い中で、生徒が主体的に活動できるよう環境を整え活動の充実を図ってきた。生徒会を主体として全校生徒で各種行事を成功させてきた。

また、新型コロナウイルス感染症に起因するいじめなどを懸念したが、人権尊重の重要性を指導してきた結果、大きなトラブルとなることはなかった。さらに、特別支援学級との交流活動を定着させたことで、通常の学級と特別支援学級の生徒の双方にとって、違いがあることを認め合い、互いのよさに気付く心情を育む基礎の構築にもつながった。一方で、相手の気持ちを考えない言動や行動が見られ、いじめへの対応が必要となることがあった。未だ、他の人のことを思いやること、仲間への心遣いという面においては課題があり、今後も様々な体験を通して、周りの人の気持ちのわかる生徒に育てていかなければならない。

学力の向上については、基礎・基本の確実な定着を図るため、授業時間を確保し、授業規律を大切に学習活動を展開してきた。次年度も補習教室はもちろん、地域連携事業の授業補助やゲストティーチャー、地域未来塾を活用して、学習支援を必要とする生徒への基礎力定着にも重点を置く。思考力・判断力・表現力の育成に向け、言語活動を充実し、タブレット端末等のICT機器等を活用した主体的・対話的で深い学びを実践する。そのためにも三人組研究授業のO J Tを充実させ、教員の授業力向上を図る。

保護者・地域との連携については、新型コロナウイルス感染症の影響により十分な連携が困難であったが、次年度はP T Aや父親の会等、多くの組織と連携を深めていきたい。課題としては、行事への来校者は多いが、学校公開日、道徳授業地区公開講座や父親の会の行事に参加する保護者は少ない。保護者・地域と連携をさらに密にし、多くの保護者が参加できる取組を取り入れていきたい。

結びに、これからの時代は、生徒が社会に出ても学んだことを生かせるように、持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力を育成していくことが必要とされている。これから20年、30年先の社会がどのように変化しても、生徒が自ら課題を見付け、自ら学び、考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現できるよう、教育活動を見直し、不断に改善していく。